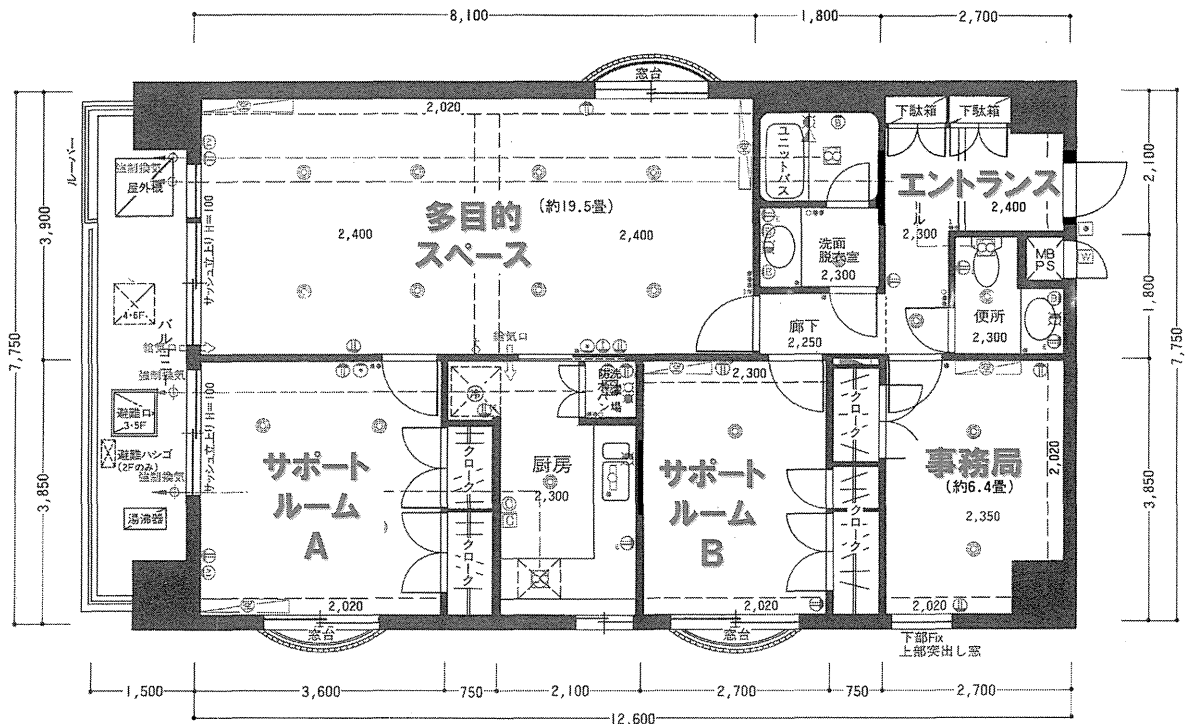


私たちの月間プログラム

		月	火	水	木	金	土
第1週	午前	肺 グループ	大腸 グループ	胃・食道 グループ	子宮・卵巣 グループ		就業者 グループ
	午後	合唱	自律訓練法 カウンセリング	セカンド・ オピニオン	説明会		
第2週	午前	肝・胆・膵 グループ	腎・膀胱 グループ	家族 グループ	乳腺 グループ		
	午後	ヨーガ	出張 グループ	セカンド・ オピニオン	説明会	前立腺 グループ	
第3週	午前	肺 グループ	大腸 グループ 友の会	胃・食道 グループ			就業者 グループ
	午後	合唱	自律訓練法 カウンセリング	セカンド・ オピニオン	説明会	アロマセラピー	
第4週	午前	肝・胆・膵 グループ	腎・膀胱 グループ	再発・転移 グループ	乳腺 グループ		
	午後	ヨーガ	出張 グループ	セカンド・ オピニオン	説明会		

がんサポートコミュニティ《平面図》

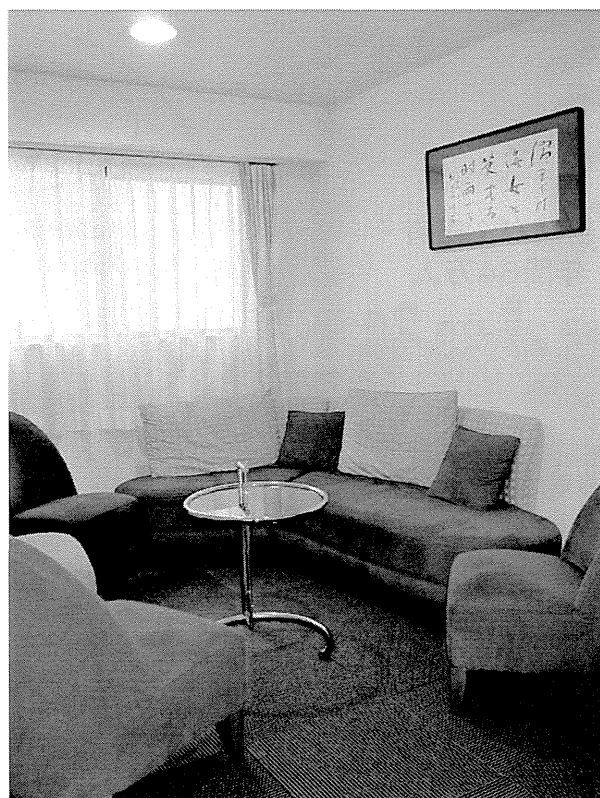


占有面積: 97.65m²(29.53坪)
 バルコニー面積: 10.87m²(3.28坪)
 合計: 108.52m²

エントランス



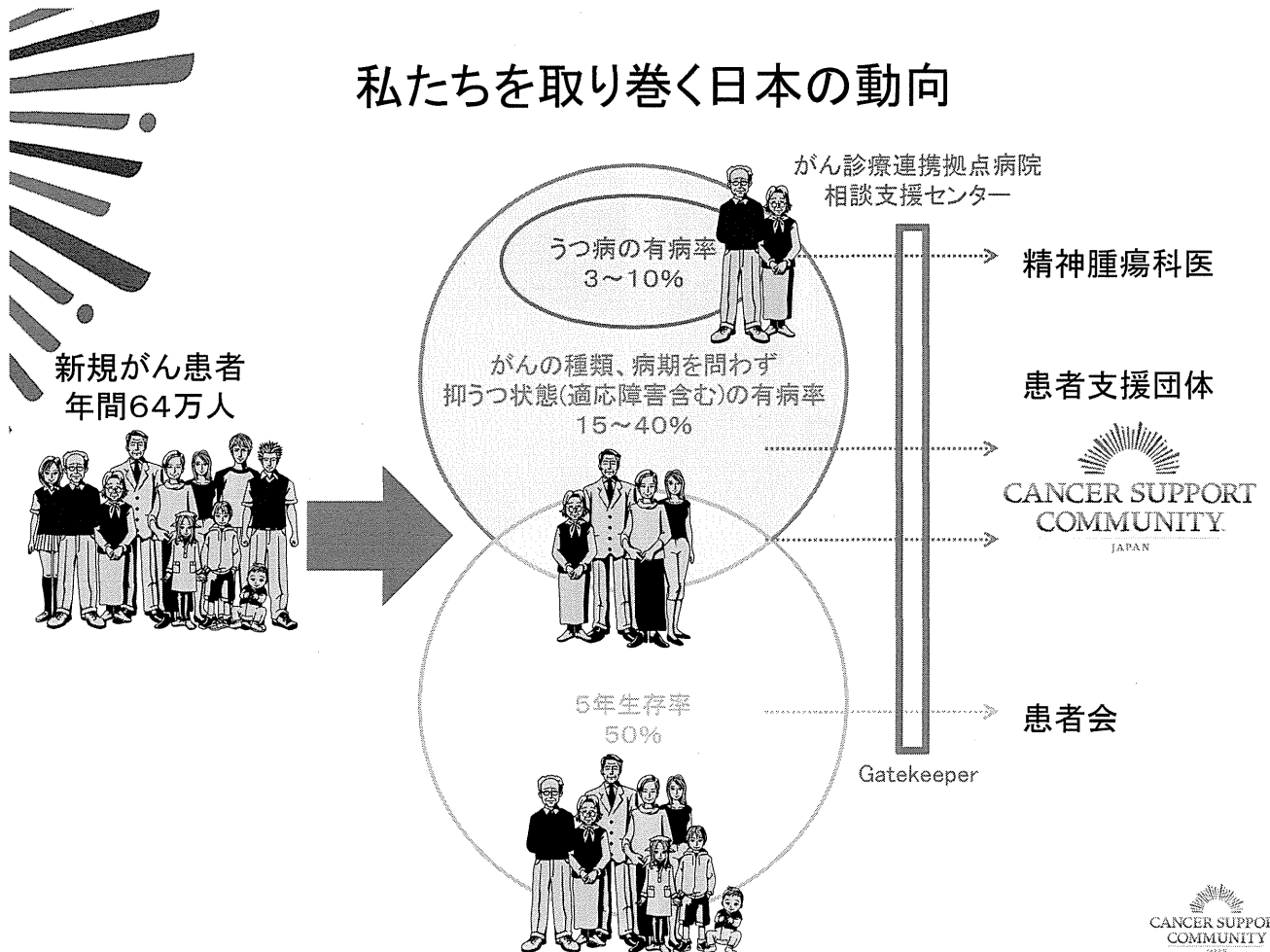
サポートルームA/B



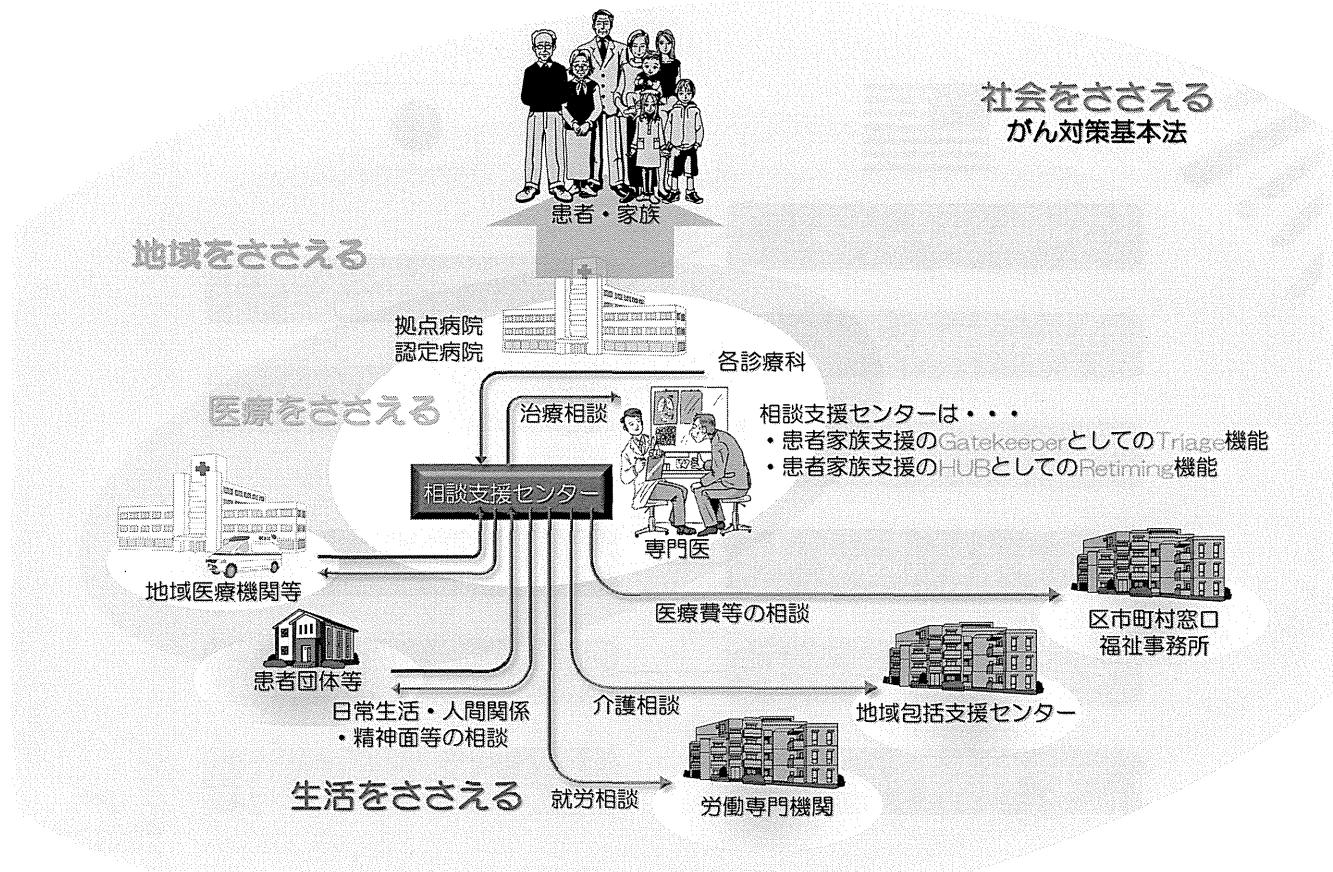
多目的スペース



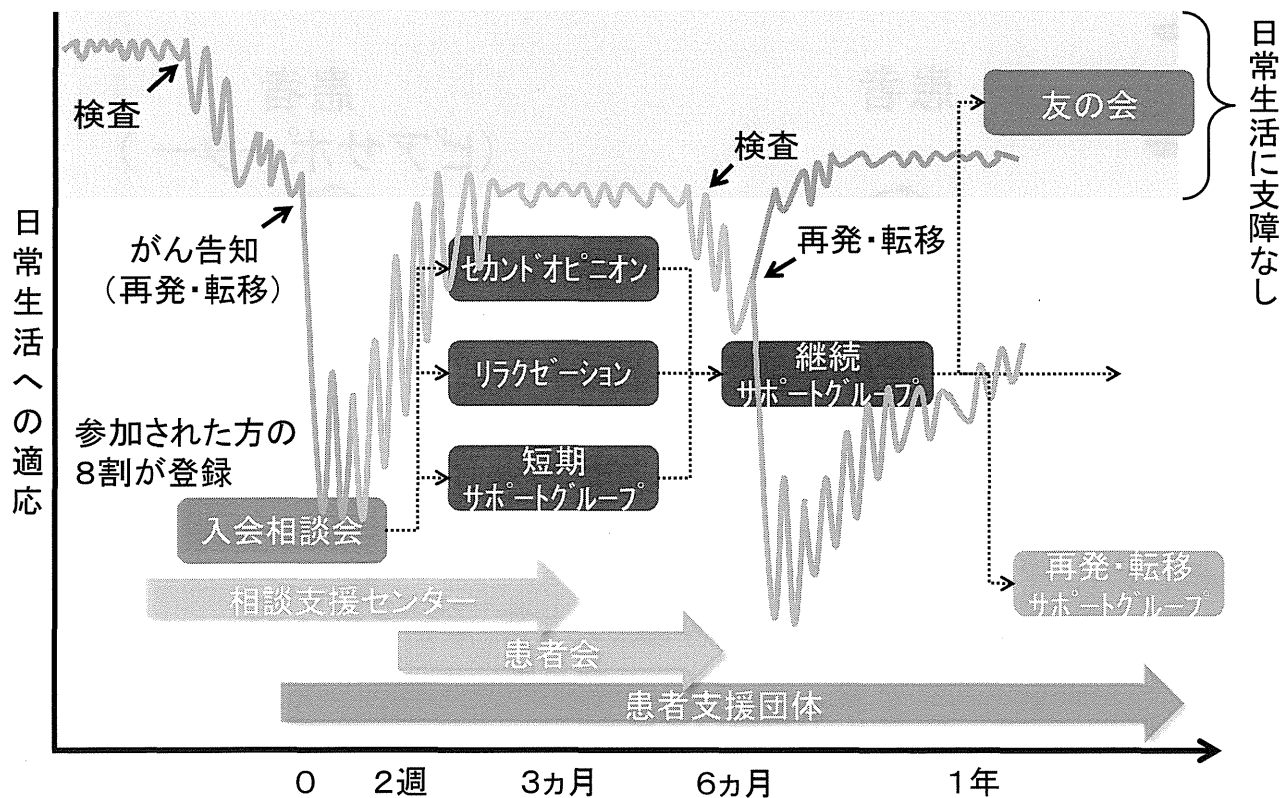
私たちを取り巻く日本の動向



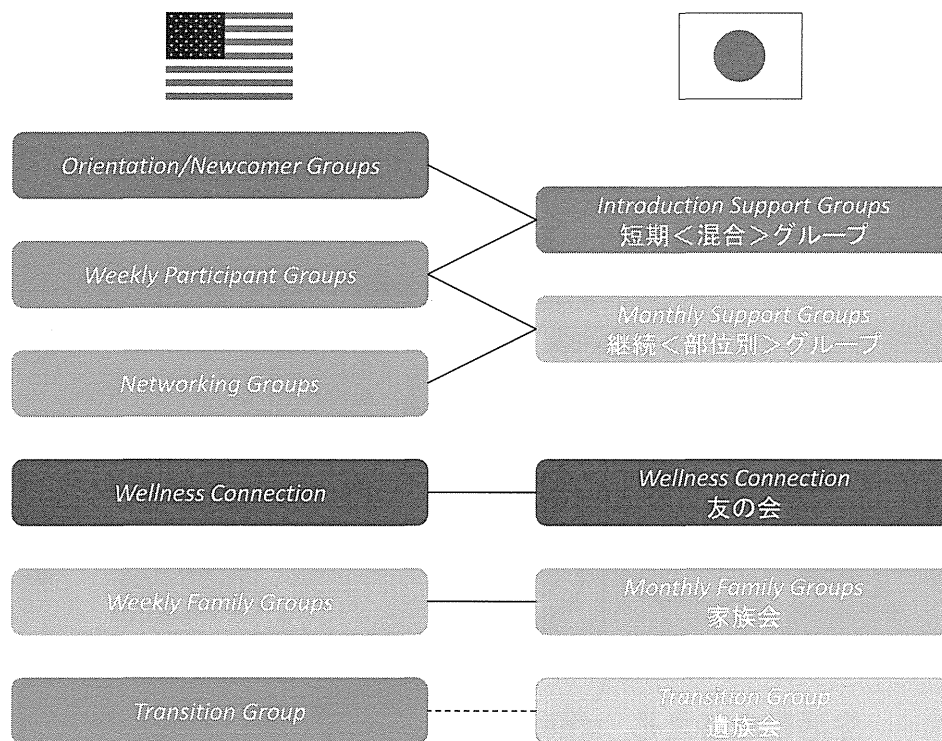
患者・家族をささえる相談支援体制イメージ（案）



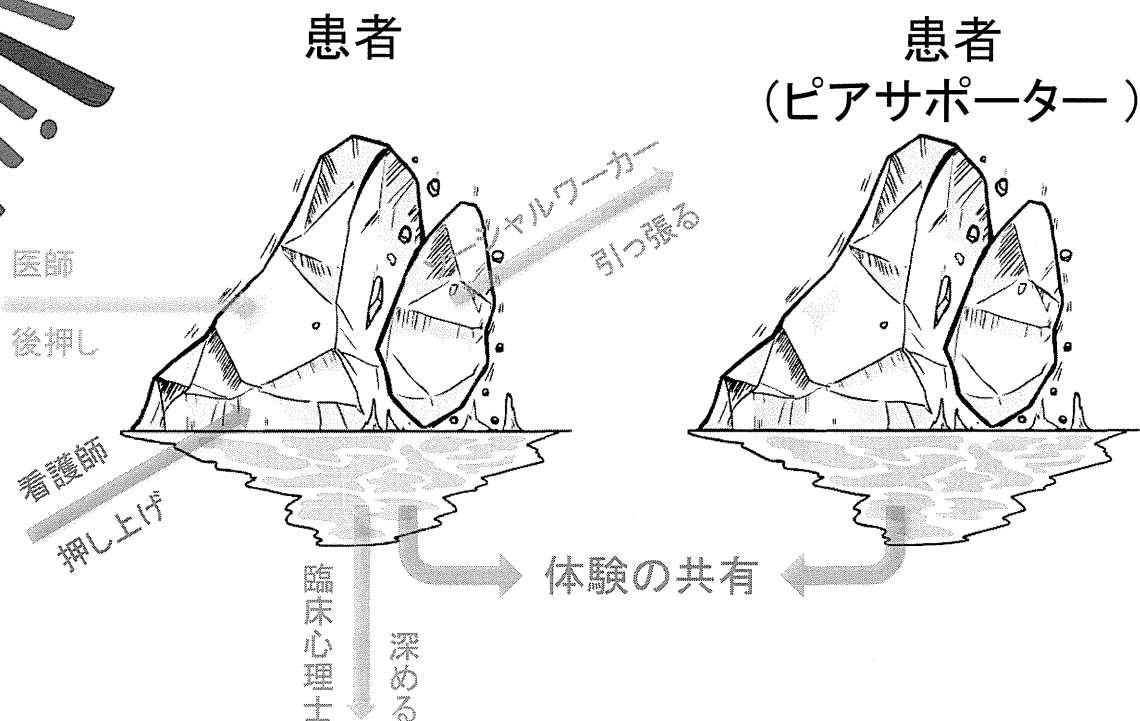
私たちのサポートプログラムの体系



私たちのサポートグループのタイプ



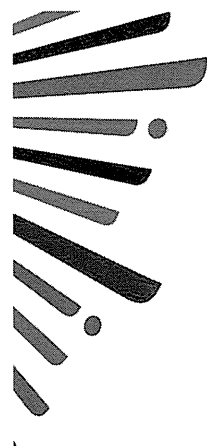
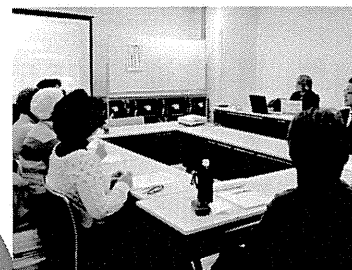
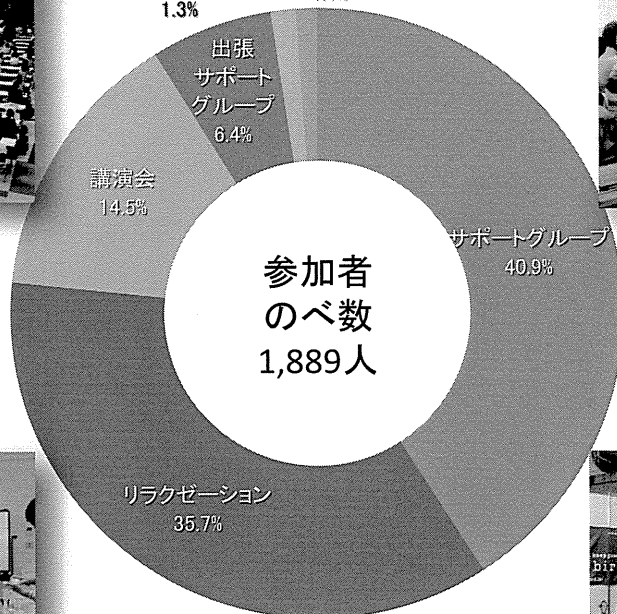
立場によるサポートの仕方のちがい



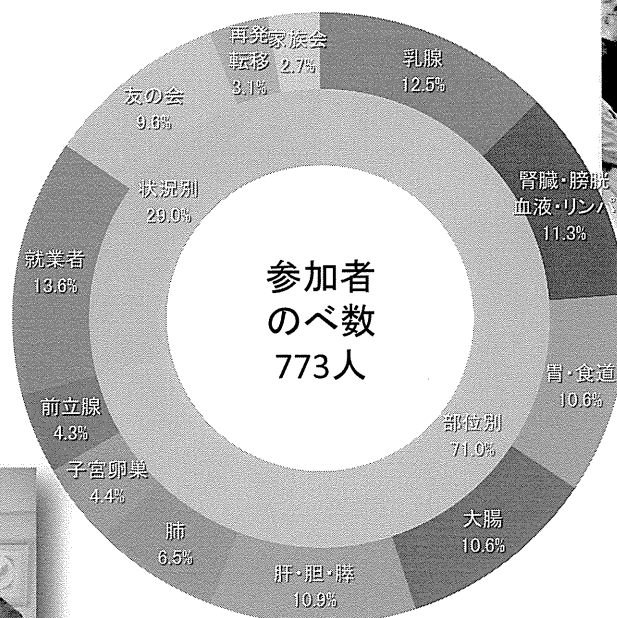
2011年度サポートプログラム参加者



セカンドオピニオン相談 1.3%
説明会 1.1%



2011年度サポートグループ参加者



2011年度サポートグループ参加者

1位 胃・食道	25.5%
2位 大腸	20.0%
3位 前立腺	14.5%
4位 肝・胆・膵	10.9%
5位 肺	9.1%

1位 乳腺	34.7%
2位 大腸	17.9%
3位 子宮・卵巣	15.8%
4位 肺	9.5%
5位 胃・食道	5.3%



重複がん 7.3%
再発転移 36.4%
逝去 10.9%

重複がん 5.3%
再発転移 33.7%
逝去 9.5%

36.7% 63.3%

2011年度リラクゼーション参加者



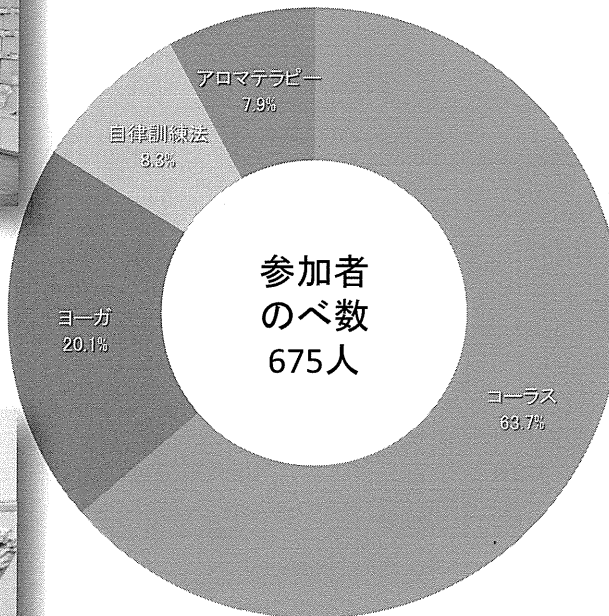
アロマテラピー講座
毎月第3金曜日
14時～15時

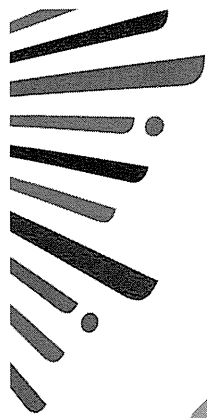


コーラス講座
毎月第1・第3月曜日
13時30分～15時30分



ヨーガ講座
毎月第2・第4月曜日
14時～15時

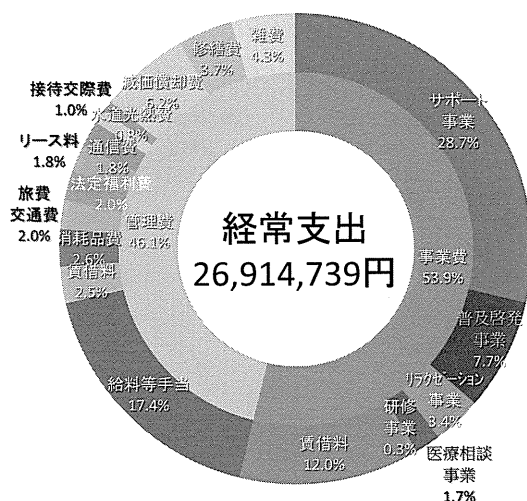
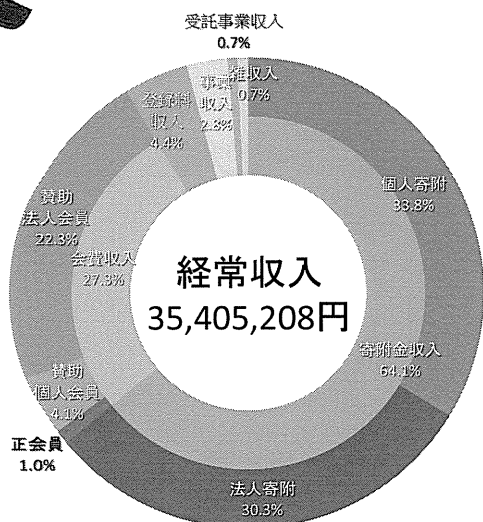




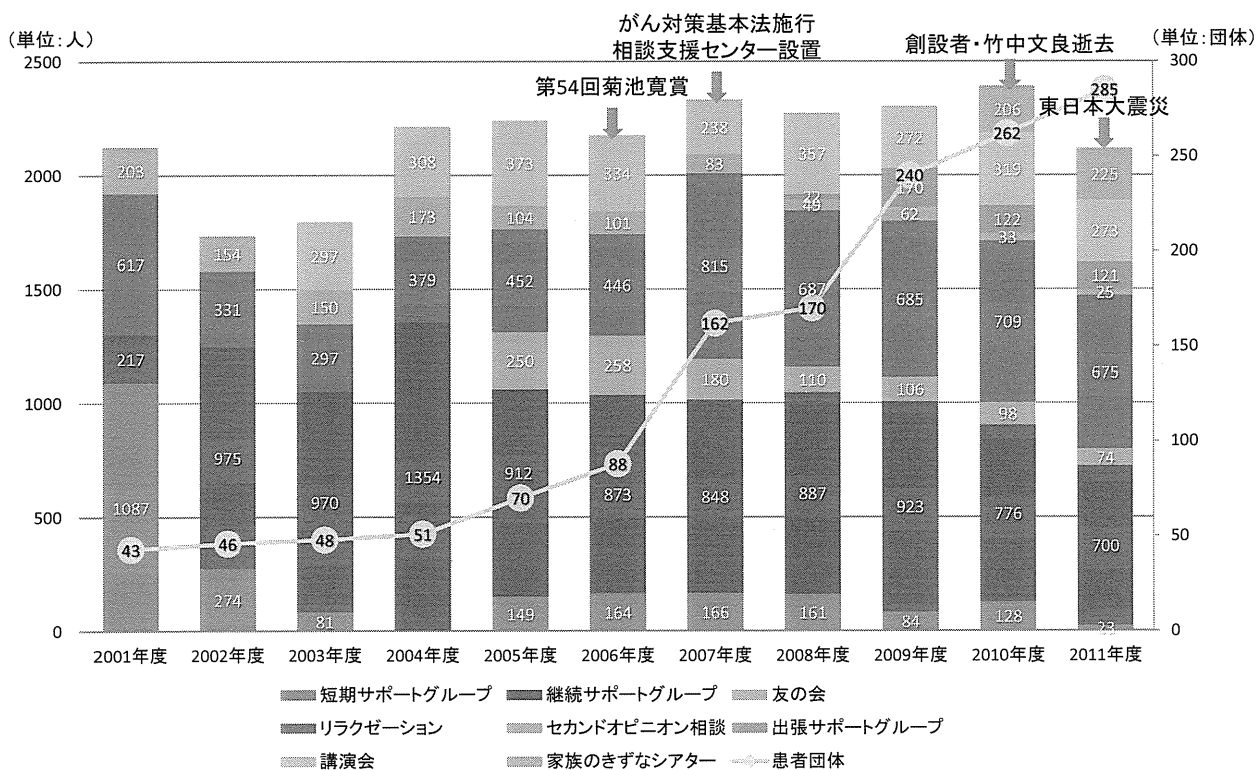
2011年度会計収支

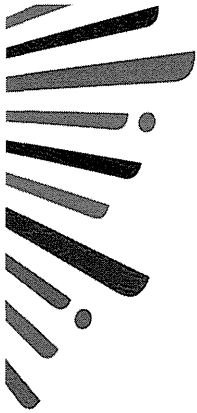
経常収入の部

経常支出の部



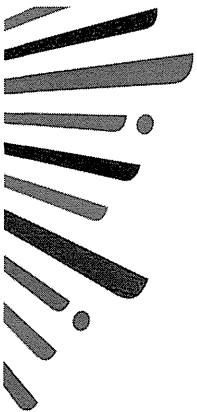
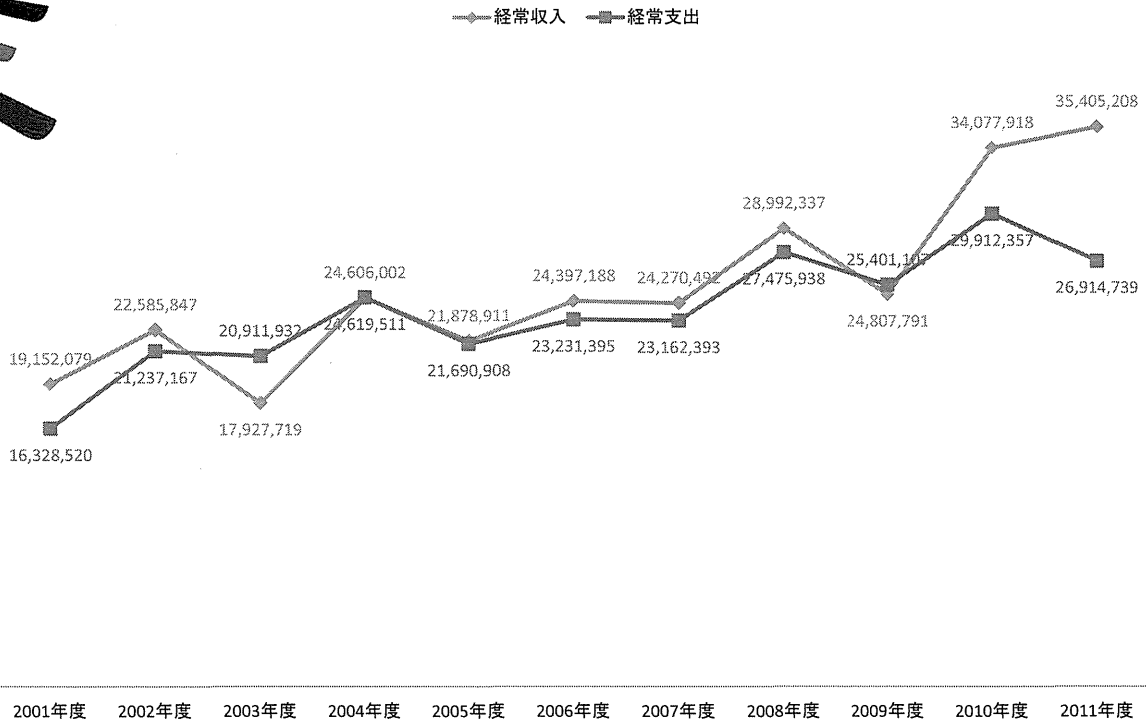
10年間の参加者数の推移





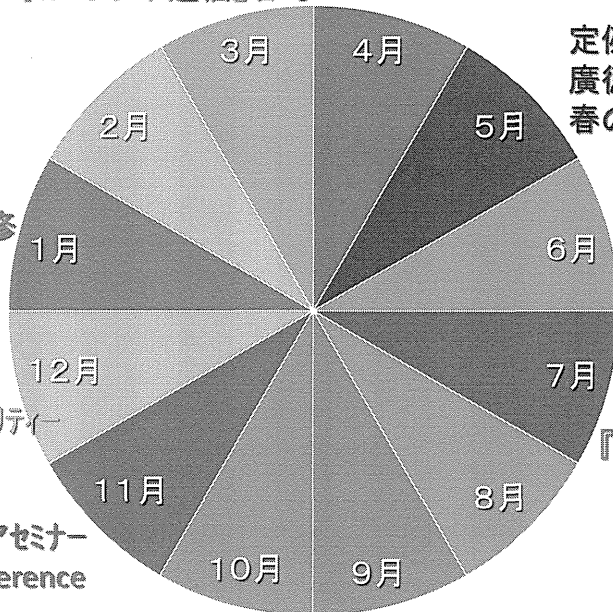
10年間の会計収支の推移

(単位:円)



私たちの1年間の主な活動

『がんサポ通信』春号



4月
定例理事会／総会
廣徳寺御茶会
春の研修旅行

6月
ハーブピクニック
資生堂・ビューティケアセミナー

7月
『がんサポ通信』夏号

11月
大阪マラソン
資生堂・ビューティケアセミナー
CSC National Conference

10月
大徳寺坐禅体験ツアー
ペイシエント・アクティブ・フォーラム

9月
第一三共・家族のきずなシアター
日本サイコオンコロジー学会

1月
エーザイ・ファシリテーター研修

12月
クリスマスパーティー
クリスマスコンサート
中外製薬・がん撲滅チャリティ



地域コミュニティとの連携

港区のがん治療・緩和ケアに関する社会資源です。

東京都認定がん診療病院 がん相談センター ▶▶▶ がん医療の推進の要となります！

最新のがん医療を最先端で提供するため、併用施設としてがん診療科と緩和ケア科の連携を図る。併用施設としてがん診療科と緩和ケア科の連携を図る。併用施設としてがん診療科と緩和ケア科の連携を図る。

拠点／認定病院 相談支援センター

名称	住所	TEL	受付時間
① 港区がん相談支援センター	港区新橋 2-1-1	03-5223-2232	9:00-17:00
② 港区がん相談支援センター	港区新橋 2-1-1	03-5223-2232	9:00-17:00
③ 港区がん相談支援センター	港区新橋 2-1-1	03-5223-2232	9:00-17:00
④ 港区がん相談支援センター	港区新橋 2-1-1	03-5223-2232	9:00-17:00
⑤ 港区がん相談支援センター	港区新橋 2-1-1	03-5223-2232	9:00-17:00
⑥ 港区がん相談支援センター	港区新橋 2-1-1	03-5223-2232	9:00-17:00
⑦ 港区がん相談支援センター	港区新橋 2-1-1	03-5223-2232	9:00-17:00
⑧ 港区がん相談支援センター	港区新橋 2-1-1	03-5223-2232	9:00-17:00
⑨ 港区がん相談支援センター	港区新橋 2-1-1	03-5223-2232	9:00-17:00
⑩ 港区がん相談支援センター	港区新橋 2-1-1	03-5223-2232	9:00-17:00

在宅療養支援診療所 ▶▶▶ 住み慣れた場所で医療が受けられるのが特徴です！

在宅療養支援診療所とは、認定された医師が在宅で診療を行うことで、自宅での療養を支援する診療所です。在宅療養支援診療所とは、認定された医師が在宅で診療を行うことで、自宅での療養を支援する診療所です。

名称	住所	TEL	受付時間
① 港区がん相談支援センター	港区新橋 2-1-1	03-5223-2232	9:00-17:00
② 港区がん相談支援センター	港区新橋 2-1-1	03-5223-2232	9:00-17:00
③ 港区がん相談支援センター	港区新橋 2-1-1	03-5223-2232	9:00-17:00
④ 港区がん相談支援センター	港区新橋 2-1-1	03-5223-2232	9:00-17:00
⑤ 港区がん相談支援センター	港区新橋 2-1-1	03-5223-2232	9:00-17:00
⑥ 港区がん相談支援センター	港区新橋 2-1-1	03-5223-2232	9:00-17:00
⑦ 港区がん相談支援センター	港区新橋 2-1-1	03-5223-2232	9:00-17:00
⑧ 港区がん相談支援センター	港区新橋 2-1-1	03-5223-2232	9:00-17:00
⑨ 港区がん相談支援センター	港区新橋 2-1-1	03-5223-2232	9:00-17:00
⑩ 港区がん相談支援センター	港区新橋 2-1-1	03-5223-2232	9:00-17:00

訪問看護ステーション ▶▶▶ 在宅で療養する患者さんへ

訪問看護ステーションとは、看護師が患者さんの自宅に訪問して、看護ケアを提供するサービスです。訪問看護ステーションとは、看護師が患者さんの自宅に訪問して、看護ケアを提供するサービスです。

民間相談機関 ▶▶▶ がん医療に関する相談窓口

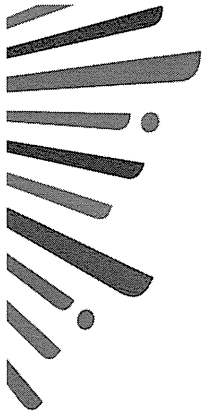
がん医療に関する相談窓口として、民間の相談機関が活躍しています。がん医療に関する相談窓口として、民間の相談機関が活躍しています。

各地区総合支所区民課 保健

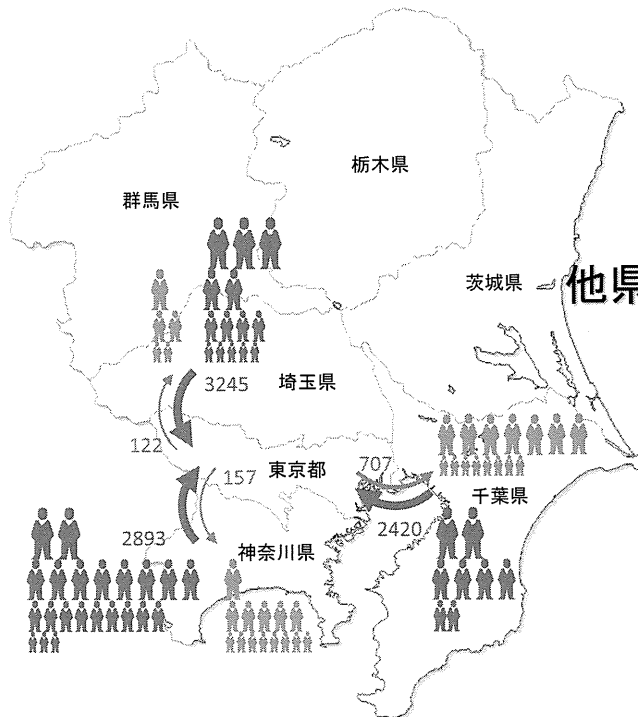
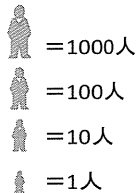
各地区総合支所区民課 保健課にて、がんに関する相談窓口が設けられています。各地区総合支所区民課 保健課にて、がんに関する相談窓口が設けられています。

高齢者相談センター（他）

高齢者相談センター（他）にて、がんに関する相談窓口が設けられています。高齢者相談センター（他）にて、がんに関する相談窓口が設けられています。



私たちが活動する東京都 首都ゆえの特殊性



『2007年症例院内がん登録腫瘍データ収集調査集計表(概数・速報版)』
 (国立がんセンターがん対策情報センターがん情報・統計部院内がん登録室
 :「第2回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会」配布資料)



私たちの活動圏の限界

埼玉県171人 (10.7%)

1都3県
全体の84.4%

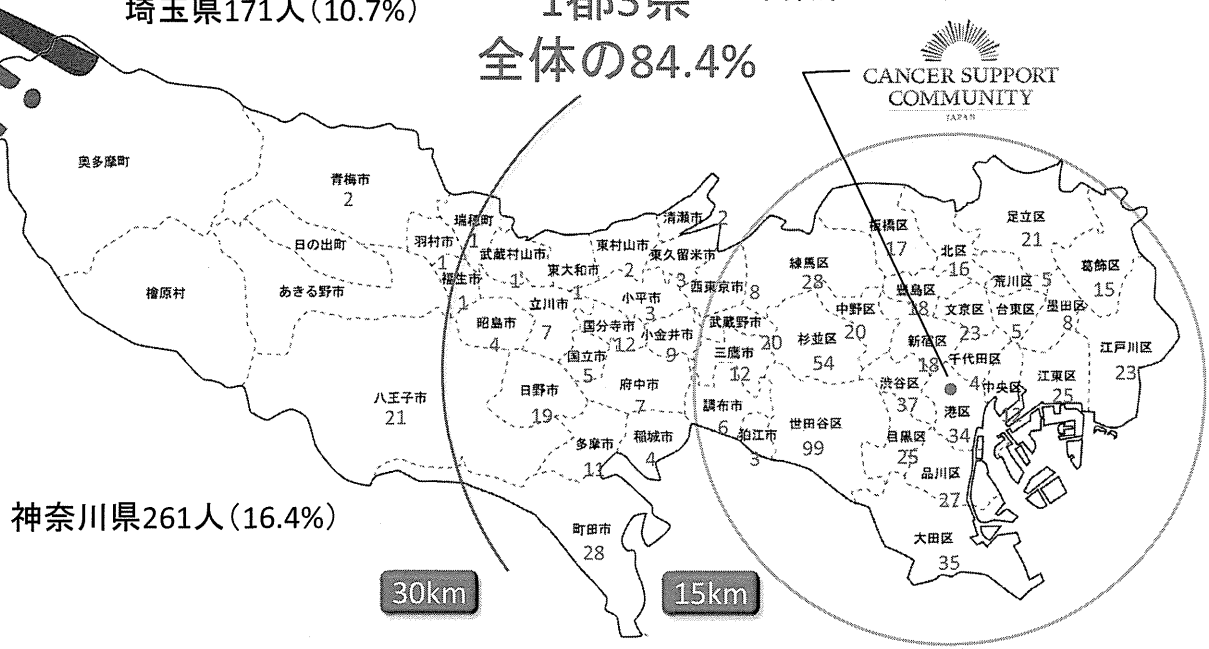
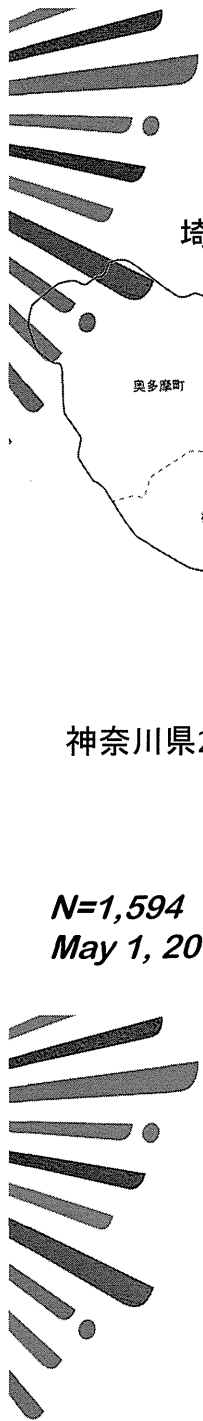
千葉県151人 (9.5%)

神奈川県261人 (16.4%)

東京都763人 (47.9%)

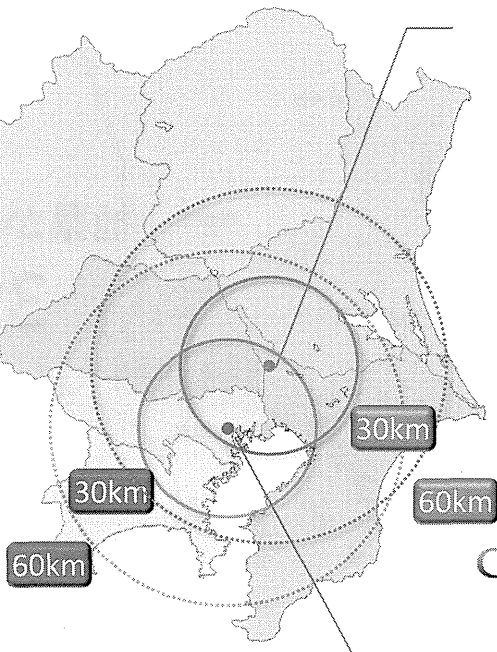
N=1,594

May 1, 2001 – March 31, 2011



私たちの活動圏の拡大の必要性

がん患者・家族総合支援センター
(千葉県柏市)



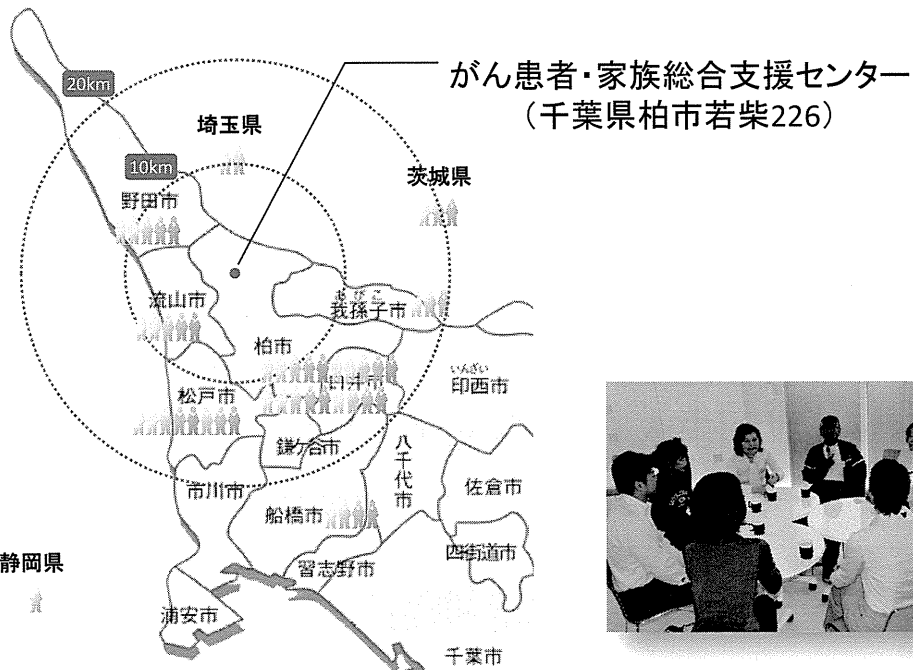
CANCER SUPPORT
COMMUNITY

JAPAN

(東京都港区)



出張サポートグループ

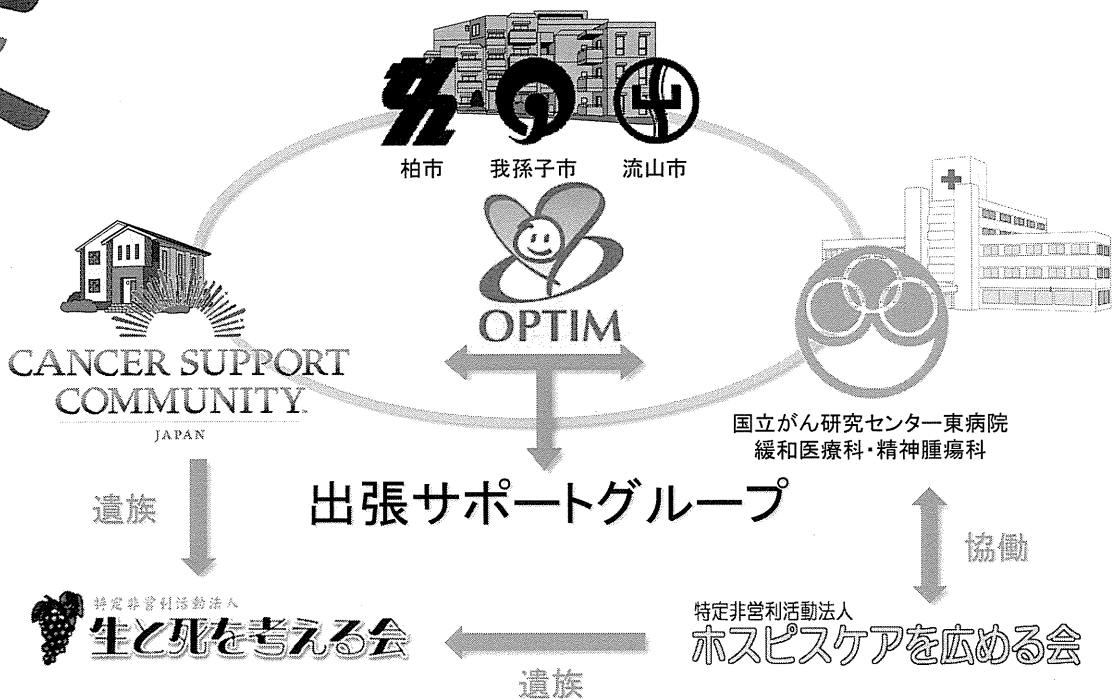


N=51

Jan 27, 2009 – Dec 27, 2011



柏市におけるコミュニティサポート体制



※Outreach Palliative care Trial of Integrated regional Model (OPTIM)



《まとめ》
再考してみてください

1

• 患者は要支援者という妄信!?

2

• 牢名主現象の功罪!?

3

• 情けは人の為ならず!?

4

• 患者サロン万能神話!?

おわりに・・・

変えることのできないものを
受け入れる“冷静さ”を
変えることのできるものを
変える“勇気”を
そして
両者の違いを見分ける“知恵”を

Reinhold Niebuhr
アメリカ神学者

大井先生の発表後の Q&A

Q1.

がんサポートコミュニティだけではないと思いますが、先ほど東京都の図の中で、相談支援センターがある意味【振り分け】のような役割というお話がありました。

ただ、すべての方が相談支援センターを頼るわけではないと考えた時に、ニーズがある方がもれることはないでしょうか。そのあたりのことを、どのように考えられているか、また、そういうふうにニーズがあるにもかかわらず、相談支援センターの【ふるい】からもれてしまった方々はどうしたらよいのか、先生はどのように考えられているか、その2点をお聞かせいただけたらと思います。

A1.

先ほどの図ですが、東京都の場合、まず相談支援センターの存在と役割を知っていただくことから始めようと考えています。東京都がん対策推進協議会の議論では、東京都ポータルサイト（仮称）を立ち上げようとか、あるいはネットが使えない方たちのためにいろいろなリーフレットをつくることも考えています。

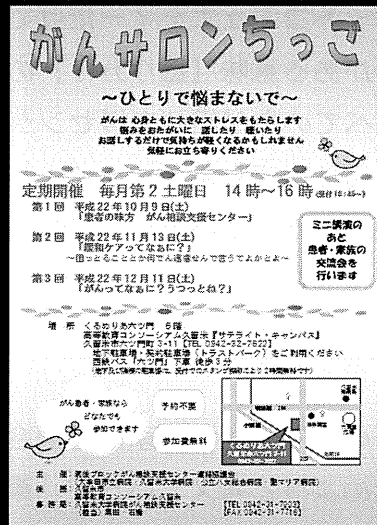
まず相談支援センターという相談できる場があること、特にがん診療連携拠点病院の相談支援センターの場合は、別にその病院にかかっているなくても相談できるんですよというようなことが市民に全然伝わっていないという現状があります。そこで、まず相談支援センターの存在を、市民に伝えようということです。

もう一点に関してですが、以前は、患者さんによっては、がんの影響で落ち込みが激しくて非常に精神的な負担を抱えているということがありました。しかしながら、最近では、もともと精神的な疾患に罹っていた方ががんにかかったというケースも増えてきました。そのような方が、患者会あるいは地域のサポート資源に参加してしまうことによって早期の治療機会を失うなどの不利益、あるいは対処しきれない状況など、いろいろな問題も起こるだろうということを考えて、ぜひ相談支援センターにトリアージ機能を果たしていただきたいというのが基本的な考えです。したがって、相談支援センターの存在と役割を市民に知っていただくことが何よりも重要と考えています。

東京都では、都民と患者さんの意識調査を実施しました。がん診療連携拠点病院に東京都認定がん診療病院を加えるとがん関連病院は34カ所あります。こうした病院にかかっている患者さんに、無作為でアンケートを実施した時に、相談支援センターに4割の方はまた行きたいと回答していて、4割の人はもう行かないと回答しています。もう行かないと回答している人は一体なぜ行かないと思っているのかという分析が、今後必要だと思います。また、その4割もまた行きたいということになれば8割が行きたいということになるので、広報活動と併せて、患者さんの期待に応える相談支援体制づくりもしていかなければならないだろうというのが東京都における今後の戦略になるかと思っています。

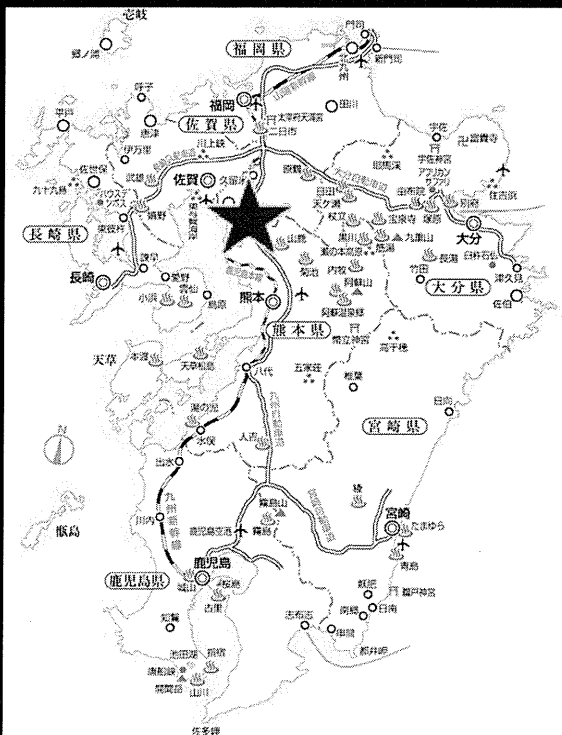
街中「がんサロンちっこ」の紹介 ～1年10か月の実績から見えてきた効果と課題～

- 1 はじめに
- 2 「がんサロンちっこ」の紹介
- 3 活動実績(アンケート結果)
- 4 考察・結果
- 5 今後の課題



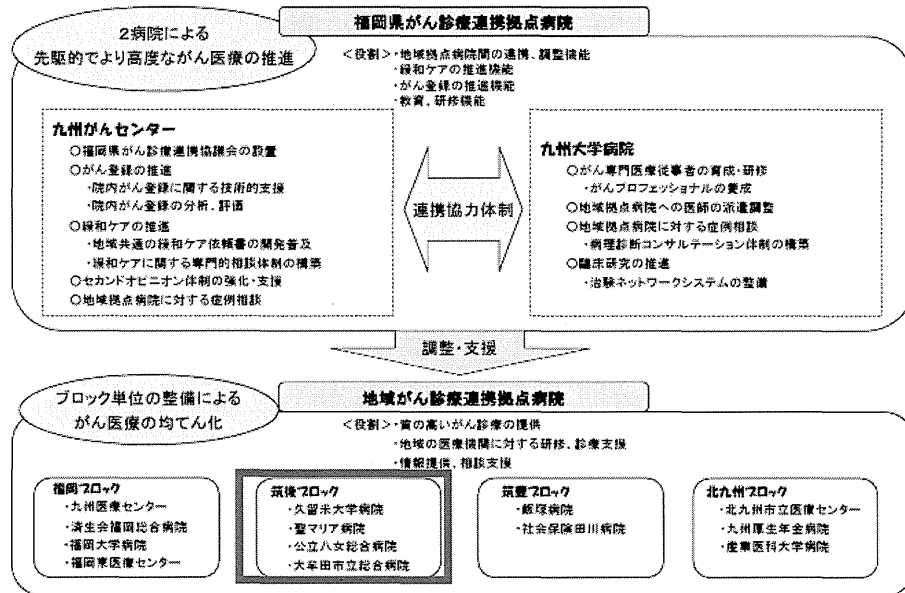
2012年8月25日
 筑後ブロックがん相談支援センター連絡協議会
 地方独立行政法人 大牟田市立病院
 MSW 北嶋 晴彦

福岡県筑後地区はココです。



福岡県がん診療連携拠点病院体制(平成24年2月現在)
 全国388ヶ所(県拠点51+地域拠点337)
 福岡県内18ヶ所(県拠点2+地域拠点13+県指定3)

福岡県がん診療連携拠点病院体制



筑後ブロックがん相談支援センター連絡協議会

大牟田市立病院 (4人) ※()内はスタッフ数
 大牟田市 350床(一般) 29診療科

久留米大学病院 (3人)
 久留米市 1098床(一般1045/精神53) 26診療科

公立八女総合病院 (3人)
 八女市 330床(一般) 19診療科

聖マリア病院 (3人)
 久留米市 1354床(一般1188/精神60/療養100) 27診療科



- ✓ 代表 峯 孝志(久留米大学病院 准教授 腫瘍内科)
- ✓ 2008年1月より毎月1回の連絡会議
- ✓ 情報共有→地域医療機関のがん調査→がんサロン運営
- ✓ 会則作成(第1~8条) 2010年5月26日

「がん対策推進基本計画」に掲げられている

「がん専門相談員」の役割

- ✓ 相談支援に関し十分な経験を有する看護師等の医療従事者や患者団体等との連携について検討する
- ✓ がん患者本人はもとより家族に対する心のケア(精神的支援)が行われる相談支援体制を構築してゆく
- ✓ がん患者や家族等が、心の悩みや体験等を語り合うことにより、不安が解消された、安心感につながったという例もあることから、こうした場を自主的に提供している活動を促進してゆくための検討を行う

「がん専門相談員のための学習の手引き～実践に役立つエッセンス～」(P15)

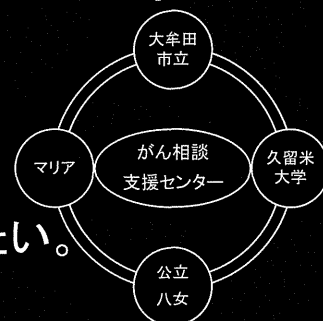
2008年9月 国立がんセンターがん情報センター

「がんサロンちっこ」の紹介①

※「ちっこ」とは福岡県筑後地域を表す方言

目的: がん患者やその家族等に相談交流できる場を設け、参加者同士で情報交換を行い、悩みや不安を取り除くことで生活の質向上に寄与することを目的とする

特徴: 筑後ブロックがん相談支援センター連絡協議会が共同し、病院外の街中にがんサロンを新規に立ち上げた事



各がん拠点病院の所在地で、がんサロンを運営したい。

- ニーズは本当にあるの？
- 運営のノウハウがない
- みんなで久留米市で立ち上げてみよう

「がんサロンちっこ」の紹介②

※「がん患者サロンの取り決め」より

目的:がん患者・家族の交流 情報交換の場の提供 生活の質向上

対象者:がん患者およびその家族

非会員制 事前申し込不要 参加費無料

年齢・地域・疾患・受診医療機関の制限なし。名前は匿名でも可

開催日:毎月第2土曜日 14時～16時 平成22年10月開始

場所:久留米市中心街のショッピングモール(くるめりあ六ツ門6階)

運営主体:筑後ブロックがん相談支援センター連絡協議会

→2011年4月より患者会が発足し運営に参画

「虹の会」・・・午後2時開始 虹の架け橋になりたい

「がんサロンちっこ」の紹介③

主な内容:ミニ講演(30分)＋患者・家族交流会(90分)

参加ルール:やってはいけないことを規定(一部)

✓他人のプライバシーを侵す行為

✓宗教・思想などの押しつけ・営利目的活動

✓サロン内で得た情報を勝手に口外すること(個人情報保護)

活動評価:参加者アンケートの実施(開催毎)

運営費:4万円(1万円×4病院 平成23年度)＋個人寄付金

※会社(団体)からの寄付依頼はあるも現在は見送り

広報:行政機関・マスコミの利用 各病院の広報活動

後援:久留米市、高等教育コンソーシアム久留米、大牟田市、
八女市、広川市(がん拠点病院のある全地域からの後援あり)

「がんサロンちっこ」の紹介④



「がんサロンちっこ」の紹介⑤

ミニ講演の演題(一部)

がん患者の味方！ がん相談支援センター！！	「抗がん剤治療中のスキンケア」 認定看護師
「緩和ケアってなあに？」 医師(麻酔科)	「放射線治療ってなあに？」 医師(放射線)
「がんってなん？うつとね？」 医師(外科)	「おいしく食べる工夫」 栄養(NST)専門療法士
「がん治療と経済的負担の軽減」 がん専門相談員(MSW)	「がん告知後の心の持ち方」 診療心理士
「患者の立場から」 患者会代表	「在宅療養と訪問看護」 訪問看護師
「がん告知後10年を振り返って」 患者体験談	「家族の体験談」 患者家族

「がんサロンちっこ」の紹介⑥

がんサロン開設のポイント

- ✓ 活動理念が明確である
連絡協議会の会則作成(第8条)
がん患者サロンの取り決め(15項目)
「虹の会(患者会)」の発足(会則8条)
- ✓ 十分な準備期間(約1年半の準備期間・会議は月1回)
- ✓ 集まり易い会場(アクセスと利用金額)
- ✓ 広報活動(行政への後援依頼、マスコミ活用)
- ✓ アンケート作成(活動評価)
- ✓ スタッフは勤務扱い(継続性)
- ✓ スタッフの仲が良い!?(リーダーの存在)



アンケート結果①

回答率88%

参加者数(22回開催)

合計442人 平均20人/回

開催数

単位:人

